拠点運営での取組報告

〈事業報告〉

なごみん　7/21・8/4　なごみんつながるプロジェクト2023

●総来場者数　70名

●地域の一員である岡崎聾学校と体力づくりに取り組んでいる岩津太極拳クラブの連携を生む接点を創出できました。

●聾学校と地域活動をしている参加者が双方の活動を紹介し、協働のきっかけを見つけられる内容にしたことで、交流のみに終わらずに学校・地域活動双方の促進につながる機会を提供できました。

やはぎかん　7/29・10/28　防災交流会～実践を視野に入れた検討＆交流会～

●総来場者数　129名

●交流会では、多様な活動分野の団体が集まり意見交換をすることができ、お互いの視点を尊重しつつ、活発で前向きな意見が多く出ました。高校生にグループワークの進行をしてもらったことで多世代の交流にもつながりました。

●参加者がそれぞれの立場での活動内容を洗い出し、日頃の市民活動などが災害現場にどのように役に立つか、また横のつながりや地域とのつながりの重要性を知るきっかけを提供する場になりました。

●交流会参加者有志（岡崎ボードゲーム会）とやはぎかんが協働し「防災×ボドゲ」イベントを企画しました。小学生や親子が集まり楽しみながら防災を学ぶ機会となり、交流会では集まらなかった層に対しての防災啓発ができました。加えて、市民活動団体と協働して開催したことで協働場づくり、協働促進にもつながりました。

まち育て推進チーム　Pick UP！

岡崎市市民協働実務担当職員研修

岡崎市の職員を対象とした市民協働研修において、りた・天野（事業企画マネージャー）が講師を務めました。市民協働の基本的な考え方や政策的位置づけを説明した後、具体的な協働事例として10年前からりたが取り組んできた松應寺横丁のまちづくりを紹介し、これまでの経験を踏まえた協働の進め方やコツを解説をしました。

後半はグループに分かれ、参加者それぞれの担当部署で実現したい協働プロジェクトを検討し、その中からグループごとに1案選び、実際にどんな人とどのようなプロセスで協働を進めるかを掘り下げました。庁内の垣根を超えたつながりやNPO法人、民間企業との関係性といったソーシャルキャピタルの重要性を考えるきっかけを創出できました。

お問合せ		よりなん	59－3600	むらさきかん	66－3066	市民活動センター	23－3114
なごみん	66－8251	やはぎかん	33－3665	悠紀の里	57－5050	まち育て推進チーム	23－2888

まちのミカタ
Litaracy
2024.1 vol.125

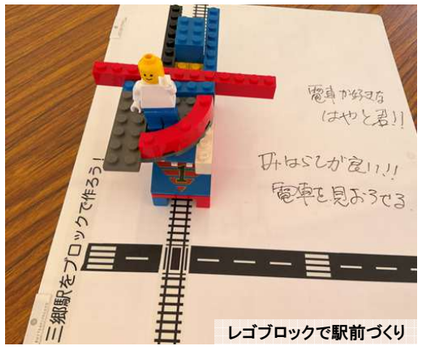
発行・編集
特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・りた
〒444-0031　愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL（0564）23-2888／FAX（0564）23-2898
http://www.okazaki-lita.com/
https://www.facebook.com/okazaki.lita/

配布
岡崎市図書館交流プラザ・Libra／岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送　等　※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力
岡崎市役所各支所／岡崎市各市民センター／シビックセンター／FMおかざき／杉くんの駄菓子屋／松應寺／cafeくらがり／

まちのミカタ
Litaracy　ーりたらしいー
125
2024年 1月

三郷ライフを漫画にしよう！



レゴブロックで駅前づくり

防災キャンプ

電車パークを体験しよう！

広場スペース

森のかけらづくり

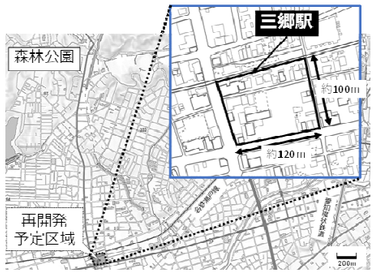
特集　三郷駅前まち育てプロジェクトから学ぶ（2021-2023）

2023年になって、名鉄東岡崎駅（ひがおか）の再開発事業に関するニュースが飛び交うようになり、岡崎市民の大きな関心事となっています。

近年、りたが携わってきた「駅前再開発事業」の例として「三郷駅前まち育てプロジェクト（以下、三郷PJ）」があります。三郷PJは、尾張旭市にある名鉄瀬戸線の三郷駅前再開発を基点として始まった市民参加事業です。三郷PJは「日本全国どこにでもあるような駅前ではなく、我が町（三郷）に相応しい駅前のあり方を考えるべき」という地元の熱い思いから始まりました。こうしたビジョンを実現するためには、再開発の地権者らを中心とした再開発組合の方々の思いにとどまらず、駅前再開発に関心を寄せる市民の思いに耳を傾けるための開かれた議論の場（ワークショップ）が必要となり、りたに協力要請がありました（2021）。様々な経過を経て今、「３５（さんごう）フレンズ」と呼ばれる活力あふれる市民（約30名）の輪が躍動しています。以下、三郷PJの経験を概説します。

特集 三郷駅前のこれまでのこれから

●三郷駅前再開発事業と推進体制



三郷駅周辺はスーパー等の商業施設が集積する尾張旭市（人口約8万）の商業的な中心地です。2009年、駅に面した約1.3haの敷地の再開発を検討し始め、2019年に再開発準備組合が、2023年に再開発組合が正式発足しました。2027年に再開発ビルが完成する予定です。

2019年から、再開発準備組合が中心となって様々な視点から議論してきましたが、より三郷らしさのある構想を練り上げるため、再開発の最大の地権者である尾張旭市役所が主導して、市民に開かれた議論の場を設けることになりました。市は、愛知県立芸術大学の水津功教授（ランドスケープ）に相談し、水津教授からのお声掛けで、りたが三郷PJに関わることになりました。水津教授、りた、デザイン会社・カチノデからなる「芸大チーム」は、三郷PJの企画運営を担い、「再開発事業の敷地内にとどまらず、敷地の内と外を一体的にとらえた区域を魅力的なエリアに育んでいくこと」「そのエリアを魅力的なものにする市民の輪・コミュニティ（現・35フレンズ）を育んでいくこと」を目指しています。

再開発組合の事務局は、再開発コンサルタント・RIAが担当しており、地権者の皆さんの思いを汲んで再開発事業を推進しています。

●三郷PJの市民参加のプロセス

これまでの具体的なプロセスの説明は「三郷駅前まち育て特設ページ（https://35project.com/）」に譲り、本稿では、市民参加を進める上で注意してきたことや特徴についてお伝えします。

2021：構想段階

市役所と芸大チームで事業コンセプトを検討する中で、駅前はその都市の顔であり、かつ、そう簡単に更新される場所でもないため「30年、40年先にも誇れる駅前になる。尾張旭市の持続可能性を高める拠点施設としての駅前になる。」ことを方針としました。このため、①（三郷=さんごう=35にかけて）35歳くらいの尾張旭市民の共感を呼ぶ構想や計画、活動とすること（＝ワークショップ開催前に、30代の市民10数名にヒアリングを実施）、②30年先の社会の変化にも対応できる構想とすること（＝社会の変化に関するミニレクチャーとあわせてワークショップを開催）、③「三郷ならではの、三郷の個性、特徴」を重視すること（＝三郷ライフを存分に語り合い、漫画化）を重視しました。

2022：基本計画段階

過去の再開発準備組合での議論を踏まえ、再開発事業の骨格として、敷地西側に商業施設や公共施設＋マンション（A街区）、北東に駐車場（B街区）、南東に商業施設ほか（C街区）を整備し、これらに囲まれる駅前広場（ロータリー等）を整備する方針がまとめられました。

その上で、敷地内に導入する公共施設の機能や、通路や広場といった共用空間のあり方について、市民意見を反映するためのワークショップを開催。

中でも電車が間近で見られる敷地の特徴を踏まえ、子どもが電車を間近で見られて親も近くでくつろげる「（仮称）電車パーク」が立案され、線路に隣接する駐車場を活用して仮設的に整備・体験する社会実験を開催しました。

2023：基本設計段階

年度冒頭のキックオフミーティングでは、同じような関心を持つ市民同士で集まってもらい「分科会」を設置し、分科会単位で検討結果をとりまとめ、7月に再開発組合の理事の皆さんに思いをぶつける場をつくりました。「こんな場所を作りたい、自分も関わりたい」という思いが形になった瞬間でした。

そうした市民アイディアをベースとして、11月に社会実験「未来の三郷駅前を体験しよう！」を開催しました。本や服のおすそ分けをする「お福分けマルシェ」、理想の三郷駅の姿をレゴブロックで表現するワークショップ、駅のグリーン化を進める「森のかけらづくり」や防災CAMPなどが実施されました。会場として、駅に近いイトーヨーカドーのエントランス広場を提供いただいたことも、今後の駅前まち育てに向けた弾みとなりました。

●三郷PJのこれから

三郷PJでは、「市民とともに愛される駅前を育てる」べく、各種の取り組みを進めてきました。再開発事業と連動して市民ワークショップを企画運営することは、りたにとって初の試みでしたが、市民参加による公共施設の計画と運営に関しては、『デザインワークショップ』から『市民プロジェクトの立ち上げ』、『市民サポータークラブの仕組みづくり』まで伴走支援した岡崎市図書館交流プラザ・りぶらの経験（2004-2008）があり、本PJでも重要な手がかりとなりました。

先日開催された社会実験にて「面白そう！私も参加したい！」と35フレンズに登録をしてくれた中学生がいます。りぶらの時も、城北中学校の生徒らがイキイキとワークショップの現場に関わってくれたことが思い出されます。そんな「遊ぶようにワクワクしながら、子どもや若者、現役もベテランも混ざり合って進めていく駅前まち育て（りたらしい市民参加）」を引き続き進めていきます。（三矢）

まちの今を切り取る！
まちづくりトピックス
-local topics-

マンホールサミット参加レポート！

令和5年10月21日（土曜日）・22日（日曜日）に岡崎市民会館、籠田公園、中央緑道、桜城橋で「第11回マンホールサミットin岡崎」が開催されました。

岡崎市は、令和5年に下水道事業100周年の記念の年を迎え、サミット開催地に選ばれました。主催はマンホールサミットin岡崎実行委員会（岡崎市・下水道広報プラットホーム（GKP））。当日は好天に恵まれ全国から「マンホーラー」と呼ばれる方々をはじめとした約13,000人の方が来場し、大盛況となりました。

恒例のマンホール蓋展示では、過去最大規模の全国100を超える自治体からマンホール蓋が集結。籠田公園と中央緑道では「踏み込め 戦国の舞台へ」をテーマとして戦国武将ゆかりのマンホール蓋で乱世統一に向けた合戦の様子を再現し、乙川河川緑地や岡崎市民会館では愛知県内自治体や岡崎市ゆかりのまち等のマンホール蓋が展示されていました。さらに、下水道に関する体験型イベントや展示など、普段は見られない下水道の世界を楽しみながら学ぶブースも多数用意され、子どもから大人までさまざまな方が参加していました。

岡崎市はすでにマンホールカードを6種類発行していて、新たなマンホールカードの発行が決まり、サミット当日には先行して配布されました。このマンホールは、すでに設置されており、岡崎市出身の内藤ルネさんのイラストと岡崎城がモチーフとなっていてとてもかわいいマンホールになっています。

新たに発行されたマンホールカードはりぶら市民活動センターで配布しています。興味のある方はぜひお声掛けをください。

▲マンホール蓋の拓本ができる体験。エコバックやTシャツなどを持ち込んでの体験もできました。

りた's Eye

岡崎市民会館、籠田公園、中央緑道、桜城橋、東岡崎駅前、乙川河川敷などのまちなかの公共空間を広く利用したことで、サミットの参加者たちにまちを知ってもらえるような仕組みに。加えて、一部道路を歩行者用道路として開放（いわゆる歩行者天国）することで、より多様な人の流れが生まれ、まち全体を巻き込み、活気あふれるイベントを実現できていたのが印象的でした。

りた職員の思いを伝える！
コラム ~lita column~

Web出願して思ったこと。

先日、高校受験を控える息子と高校のWeb出願を行いました。ネット申請に慣れてきてはいるものの、緊張がありました。噂では近い将来、合格発表もWeb上となり、高校の合格者掲示板が無くなるとのこと。あの風景が無くなるのかと思うと寂しくなりますが、世の流れと思い納得もします。

我が家は私たち40代夫婦と息子、70代両親の三世代5人家族です。それぞれの得意分野を持ち寄り、協力してなんとか暮らしています。私が得意なことは少ないのですが、両親のワクチン接種申請やマイナンバー登録などは担いました。このインターネットを利用した様々な対応、高齢者のみの世帯など苦手な皆さんはどうしているのでしょうか？スマホ教室に通う環境や、教えてもらえる人がいるのかな。

世の中も家族も色々な形があり、また変化していきます。変化を受け入れ、上手に情報を収集し、柔軟に対応していけたらいいなと思いました。

小早川隆恵（やはぎかんセンター長）
先日、東京国立博物館「やまと絵ー受け継がれる王朝の美ー」に行きました。鳥獣戯画や源氏物語など、見応えがあり楽しかったです。今年もワークとライフ、どちらもバランス良く頑張るぞー！